

ワークショップ「処分場の成立性、安全性の観点から岩盤特性を
把握するための実際的アプローチの論点整理」の開催について

平成 22 年 8 月 25 日

平成 22 年 9 月 30 日改

日本原子力研究開発機構 地層処分研究開発部門

1. 目的

原子力機構（以下、機構）は、岐阜県瑞浪市と北海道幌延町での深地層の研究施設計画において、第 1 期中期計画（平成 17～21 年度）での地上からの調査と坑道掘削時の調査から、さらに第 2 期中期計画（平成 22～26 年度）では地下坑道を活用した調査へと調査研究を段階的に進めてきている。

処分事業における処分場レイアウトの検討に資するには、処分場の成立性、操業時の安全性や閉鎖後の長期安全性を確保できる岩盤特性を把握する方法論を整備することが求められる。このためには、どのような調査の情報に基づき、どのような地質構造・地質環境特性をどのような判断によって避けるかといった処分場レイアウトを考える上での実際的アプローチの構築が必要となる。ここで「実際的」とは、調査において現実的な範囲で得られる情報に基づき、避けるべき地質構造・地質環境特性について段階的に把握ができ、かつ情報やその取扱いの不確実性を考慮しても、その判断がくつがえりにくいことを意味する。

機構では、これまで深地層の研究施設計画で取得した情報を用いて、主に処分場閉鎖後の人工バリアと天然バリアを対象とした核種移行遅延性能に着目して、相対的に性能が高い岩盤領域を抽出するアプローチについての検討を進めてきた。

本ワークショップでは、機構の事例検討を踏まえ、地下研究施設や処分場計画が先行している諸外国の研究機関を含めた国内外の専門家との議論により、実際的アプローチを導くための論点を整理する。

2. 進め方（添付 agenda 案参照）

➤ 1 日目（プレゼンテーション）

ワークショップの目的、実際的アプローチの考え方、事業、規制のニーズ、海外の先行事例と機構の検討事例の紹介

➤ 2 日目（グループ討議）

- ① 処分場の成立性、操業時の安全性や閉鎖後の長期安全性の観点からの岩盤への要求事項の整理
- ② ①を満たすために避けるべき地質構造・地質環境特性の分類と実際的な調査による避けるべき地質構造・地質環境特性の段階的な抽出
- ③ サイト調査、処分場設計、性能評価モデリングへのフィードバック

3. 開催時期・場所

時期：平成 22 年 10 月 7 日（木），8 日（金）

場所：横浜みなとみらい ランドマークタワー25 階

ビジネスサポートフロア 2501 室（神奈川県横浜市）

4. 参加者

国内の関係機関（NUMO, CRIEPI, RWMC, JNES, AIST, JNFL 等）、大学、その他民間の専門家、総勢 40 名程度。国外からの参加者については Nagra（スイス）や LBNL（米国）などの国際共同研究などの枠組みを適宜活用。

以上

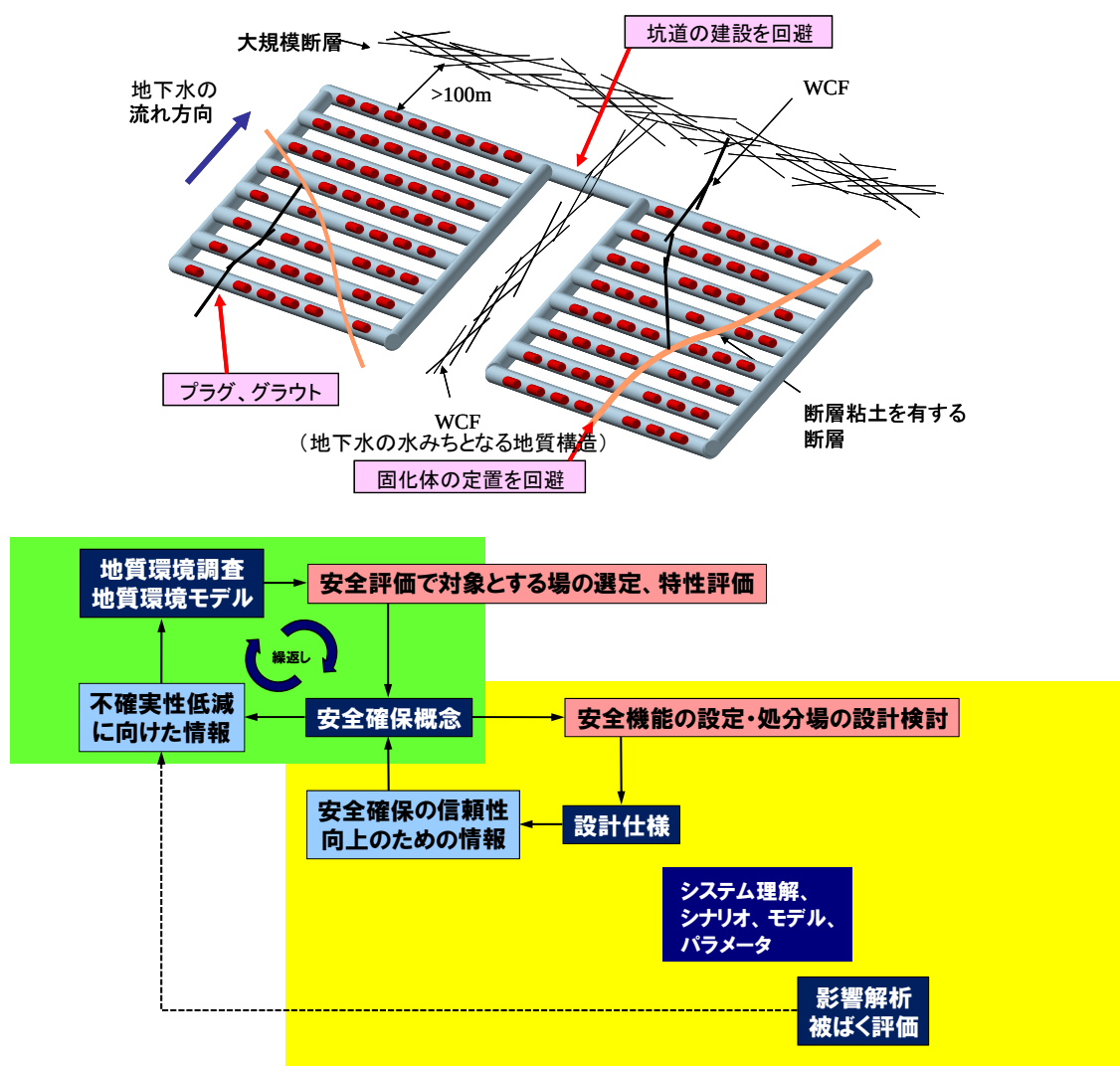


図 避けるべき地質構造・特性、岩盤の評価とフィードバック